

# 『汐製菓会社の新作のサブレ』

---

シーン：オフィスの朝

静かなオフィス。社員たちがそれぞれのデスクで作業中。電話のコール音やキーボードの打鍵音が響く。塩田が書類を抱えてコーヒーを飲みながら歩く。

塩田（独り言）

「今日こそ平穩無事に終わってほしい…。社長がまた何か思いつかなければ…。」

突然、オフィスのドアが勢いよく開く音。社員全員がひくひくとする。カランカランとした音を包んだ汐が登場。

汐（大声で）

「おはよう、諸君！準備はできているか？」

社員 A (呆れた顔で)

「また社長の朝の挨拶が…。」

社員 B (ぼそっと)

「今日は何を言い出すんだろうな。」

塩田 (慌てて近づき)

「社長、おはようございます。ですが、今日は  
10時から取引先との大事な会議があります  
よっ。」

汐 (笑顔で手を振りながら)

「そんなもの後回しだ！今日はもっと重要な  
ことがある！」

塩田 (困惑しながら)

「もっと重要…?？」

汐

「そう、新作のアイデアが降りてきたのだ！さ  
あ、全員、会議室に集合だ！」

社員たちがため息をつきつづ、塩田に促されて  
会議室へ向かう。

---

## シーン2：会議室での発表

会議室。社員たちが座り、ホワイトボードの  
前に立つ汐を見つめる。

汐（勢いよくマーカーでホワイトボードに「新  
作95」と書く）

「諸君、聞いて驚け。今回の新作は…『洋梨・  
メロン味サブレ』だ！」

会議室が一瞬静まり返る。社員たちが顔を  
見合わせる。

社員 A

「洋梨と…メロン？」

社員〇

「その組み合わせ、お菓子では聞いたことがありませんね。」

塩田（慎重に）

「社長、それが本当に売れるとお考えで？」

汐（自信満々に）

「当然だ！この二つのフルーツの甘みと爽やかさが、今までのサブレにはなかった新しい魅力を生み出すのだ！」

社員〇（手を挙げて）

「でも、洋梨もメロンも個性的な味ですし、フランスを取るのが難しそうですね。」

汐（ホワイトボードに「可能性」と大きく書く）

「そこが面白いところだ！常識に囚われず、新しい挑戦をすることが我々汐製菓の使命だ！」

塩田（苦笑いしながら）

「そう言って、前回の『ワサビ味クッキー』はあまり評判が…。」

汐

「あれは時代が追いついていなかったただけ！今回は違うぞ、絶対に成功する！」

社員たちは困惑しつつも、汐の熱意に押されつく。

---

### シーン③：試作室での試行錯誤

汐製菓の試作室。社員たちが白衣を着てオvensの試作に励んでいる。オvensの音やミキサーの音が響く中、フルーツを扱う手元が映る。

社員の（オーブンを覗きながら）

「温度は180度で焼き時間は12分。この配合で大丈夫でしょうか？」

社員D（生地を混ぜながら）

「でも、洋梨がメロンよりも主張しすぎてる気がするんですね。」

塩田（試食用のサブレを持ち上げて）

「一度試してみましよう。この試作品でどうか…。」

社員たちが試作品を試食する。最初に汐が大きな一口を食べる。

汐（目を閉じて味わい、ゆっくりと）

「うむ…。これは…！」

全員が期待の眼差しを向ける。

汐（顔をしかめて）

「少し苦いな。」

社員A

「洋梨とメロンなの？？」

塩田（試食しながら）

「たしかに…思ったよりも苦味が出てますね。  
これは配合を変えるべきかも。」

社員D

「次はメロンを少し減らしてみましようか。あ  
と、焼き加減も調整した方が良さそうです。  
す。」

---

シーン4：国内市場テスト

新宿駅前で試食イベント。ブースにはサブリ  
が山積みされ、社員たちが通行人に呼びかけ  
ている。

汐（マイクを握り、勢いよく）

「さあさあ、新作サブレはいかがですか！『洋  
梨とメロンの絶妙なハーモニー』をぜひご堪能  
くださいー！」

通行人がフースに興味を示して立ち寄る。若者たちが家族連れが試食を手取る。

若者 A

「なにこれ、洋梨とメロンってどんな味だろう？」

若者 B（一口食べて）

「あ、結構美味しいかも。最初は変だと思ったけど、クセになる感じ！」

主婦 O

「これ、紅茶と一緒に食べるといいかも。ちょっと持ち帰りたいわね。」

塩田（喜びつつも冷静に）

「思った以上に反応は悪くないですね。これならいけるかもしれません。」

汐（満足そうに）

「ほら見ろ、塩田！私の直感に間違いはなかっただろう！」

塩田（微笑みながら）

「この調子で海外にも展開できるといいですね。」

汐

「そのために次の舞台はフランスだ！」

## シーン5：フランス菓子フェスティバルの到着

場所：フランス・リヨンの大規模な菓子フェスティバル会場

汐製菓のブース準備が進む中、周囲の他ブースは華やかで洗練された装飾が施され、観客も多く集まっている。汐と塩田がブースの看板を見上げる。

看板：「Sablé 5 - Poire & Melon」

塩田（少し緊張した様子で）

「社長、本当に大丈夫なんですか。周りにはプロフェッショナルばかりですよ。」

汐（全く動じず）

「大丈夫だ。むしろこの緊張感こそが我々のチャンスを実際立たせるんだ。」

塩田（小声で）

「確かに目立ちはしますけど…。いい意味で目立つといいんですけどね。」

---

## シーンの：試食開始と最初の反応

場所：汐製菓のブース

観客たちが次々に試食品のサンプルを手に取り、場面がスローモーショントで展開し、洋梨とメロンの色合い、サンプルの表面の焦げ目、細かな粉の質感が映し出される。

フランス人女性 ♫

「洋梨とメロン？変わった組み合わせね。」

フランス人男性 田（一口食べて眉をひそめ）

「甘いのか爽やかなのか、よくわからない。」

フランス人少年 〇（母親に小声で）

「ママン、ちよつと変な味…。」

観客のざわつきが広がり、塩田が焦る。カメラが焦る塩田を映し、肩をすくめるシーンが映る。

塩田（小声で汐に）

「社長、もう無理です。撤収しましょう…。」

汐（拳を握りしめて、カメラが彼女を正面から映し出す）

「いや、ここで引くわけにはいかん。」

---

## シーン①：審査員の登場と試食

場所…汐製菓のブース

フランスの名高い審査員の人々がブースに近づく。会場全体が少し静まり返る。観客が彼らに注目する。カメラが少し低い位置から審査員たちを捉え、威厳を感じさせる。

フランス審査員 Y (一口食べてすぐに眉をひそめる)

「ムム…。これは奇妙だ。」

フランス審査員 B

「素材は良いが、フランスのサブレ文化には程遠い。」

フランス審査員 C (冷たく)

「まるで子供が遊びで作ったような味だな。」

観客たちもみなわめき、失望の聲が広がる。塩

田は完全に固まる。カメラが塩田の表情をクローゼットに映し出す。

塩田 (小声で)

「社長、もう無理です。撤回しましょう…。」

汐（自信満々に）

「これからが勝負だ。」

---

## シーン⑧：汐、審査員と正面对決

場所…汐製菓のブース前

汐が堂々と審査員たちの前に立つ。会場が静まり返る。カメラは汐を正面から映し、その自信を強調する。彼女の背後に光が差し込むような演出で、彼女の存在感を引き立てる。

汐

「審査員の皆様、一つお尋ねします。お菓子とは、何のために存在すると思いますか？」

フランス審査員A（冷たく）

「もちろん、美食のためだ。洗練された味わいを提供するためだ。」

汐（笑みを浮かべながら）

「それだけでしょうか？ お菓子は、人々に驚きや楽しさを提供するものでもあるはずです。」

フランス審査員 田

「だが、そのために伝統を捨てるわけにはいかない。」

汐

「伝統を守ることは重要です。しかし、新しい味を追求し、未知の可能性を探ることも同じくらい大切ではありませんか？」

カメラが審査員たちの表情を映し、彼らの冷たさが少しずつ和らいでいく様子を捉える。観客も少しずつ静かになり、集中して聞き入る。

汐

「この『洋梨・メロン味サブレ』は、ただの奇抜な試みではない。異なる文化や味覚を融合させ、新たな価値を生み出す挑戦なのです！」

フランス審査員〇（再び試食し、ゆっくりと  
なずく）

「たしかに……。最初の印象は奇妙だが、もう  
一度味わうと調和が見えてくる。」

フランス審査員㍶

「この大胆さは、我々フランス人が忘れかけて  
いた革新の精神を思い出させる。」

フランス審査員㍷

「ふむ。たしかに新しい可能性がここにある。」

観客から少しずつ拍手が湧き起る。カメラ  
が観客の反応を広角で捉え、盛り上がりを感じ  
させる。

シーン6：最終決断と受賞

場所：フェスティバルのステージ

コンフェスティバルの最終結果発表が行われる。司会者が結果を読み上げる。音楽が少し静かになり、緊張感を高める。

司会者

「今年之最優秀革新菓子賞は…日本から参加の汐製菓『洋梨・メロン味サブレ』です！」

会場全体が大きな拍手に包まれる。カメラが汐と塩田がステージに上がる様子を、少し後ろから映して、二人の成長と達成感を感じさせる。

塩田（感極まって涙ぐみながら）

「社長、やっぱり諦めなくてよかったですね。」

汐（満面の笑みで）

「これが我々のサブレ革命だ！」

シーン10：帰国後の祝賀会

場所…汐製菓のオフィス

オフィスに戻り、社員たちとともに祝賀会が開かれる。試作を重ねたサツシがテーブルに並び、笑顔があふれる。音楽が軽快に流れ、喜びを演出する。

社員 A

「社長、本当にすごいです。次はどんな味を作るんですか？」

汐（意味深な笑みを浮かべて）

「次は…トマト味のガトーショコラだ！」

塩田（ずっとこけながら）

「またですか!？」

全員の笑い声が響く中、画面がフェードアウト。  
7。

エンドロール

社内の賑やかな様子と海外の販促映像  
が交互に流れ、音楽が盛り上がりを見  
せる。